

## 視点1：全教職員で取組を推進するための組織運営

### 《取組内容》

#### ポイント1 取り組みの共有化

- (1) なぜ取り組むのかの根拠を説明し、共有を図る。
  - ・年度初めに教職員向けに研究主任から取り組みをする根拠と概要を説明し、共有をする。
  - ・全校朝会で生徒向けに研究主任から本校の「学びのポイント」について根拠と概要を説明し、共有をする。
- (2) だれのために取り組むのか、共有の徹底を図る。
  - ・生徒の学力を伸ばさせるための取り組みであることを教員間で共有する。
  - ・共有し、取り組むことにより生徒が「自分のために」という意識を定着できるようにする。

#### ポイント2 組織的な対応について

- (1) 各分掌・各教科・各学年の取り組み状況を確認しながら、教職員全員で取り組みにあたるようにする。
  - ・学期末の職員集会で各教科、各学年で振り返りを行う。
- (2) 管理職は教職員に達成感と有用感を与えられるための取り組みとなるようさらに内容を吟味する。

### 《提言》

#### 提言1

教職員だけでなく、生徒にも取り組みの根拠・概要を丁寧に説明し、取り組み内容を共有する。

#### 提言2

管理職は成果を見取りながら主任層と丁寧に進捗状況を確認し、取り組み内容を改善・工夫するよう常に提言していく。

## 視点2：学年や教科を越えた組織的な授業改善の推進

### 《取組内容》

#### ポイント1 単元テストの活用

- (1) 「授業で分かる」から「自分でも学習できる」へ
  - ・単元ごとの評価をフィードバックすることで、努力の成果を実感させ、生徒が授業でさらに努力したくなるようにする。
  - ・テストよりテスト前の生徒の取り組みに手と目をかける。
  - ・努力を積極的に認めて、学習の自信へとつなげる。
- (2) 評価方法の教科間での交流
  - ・上記3点を基本の考えとして、教科ごとに評価方法を柔軟に追究する。（実技教科においても同様）
  - ・評価規準とそれを見取るための適切な問題設定について、教科間で学び合う。

#### ポイント2 授業と家庭学習の連動

- (1) 学びたくなる発問の吟味
  - ・生徒が主体的に学びたくなる発問について、互いの授業から学び合う。
- (2) 家庭学習の取り組みの支援
  - ・学年毎に各教科の単元テストの日程をカレンダーで可視化し共有する。一人一人の学習状況に応じて手と目をかける。

### 《提言》

#### 提言1

単元テスト等を活用し、生徒が努力しやすい環境づくりをする。

#### 提言2

目指す生徒像や基本の考えを確認し、学年や教科毎に柔軟に取り組み方を追究する。

## 視点3：調査結果の積極的活用

### 《取組内容》

#### ポイント 校内アンケートの工夫

年度始めと各学期末に学習振り返りアンケートを行い、取り組みの改善の視点とした。（5項目と文章記述）

(1) 成果や要望は文章記述でも見取るようにする。

- ・各項目の数値とともに、数値では計れない個別の達成度や一人一人の思いを記述内容から読み取る。
- ・少数意見に取組み改善のヒントあり。
- ・Googleフォームを活用して集計の簡略化を図る。

(2) 学期毎に変化を見取り、取り組みの改善を図る。

- ・「家で自分で計画を立てて学習しているか」の生徒評価を分析し、教職員全体で確認し、次の学期の取り組みに生かす。

### 《提言》

#### 提言1

アンケートでは記述式も大切にして、数値では読み取れない生徒の思いを聞く。

#### 提言2

学期毎に生徒評価の変化を見取り、教職員全体と現状を共有し、次の学期をスタートする。